

平成27年度 第2回 総合教育会議 会議録	
1 日 時	平成28年3月25日（金）午後1時30分～
2 場 所	委員会室2
3 出席者	町 長 加藤憲郎 総務課長 目黒莊一 総務課課長補佐 大堀勝文 総務課総務係主任主査 山田裕貴子 委員長 加藤潤一 職務代理者 森 祥子 委 員 高崎義典 委 員 大須賀美穂 教育長 佐々木孝司 教育総務課長 佐藤茂文 教育総務課副主幹兼課長補佐 目黒佳子 指導主事兼総務学校係長 加藤直彦 指導主事兼社会教育主事補 伊藤 寛
総合教育会議 議事次第（司会進行 総務課）	
PART 1	本日の会議の説明（総務課長）
PART 2	町長が今年度の町行政と教育を語る
PART 3	各教育委員からの意見聴取
PART 4	町長からの総括
〔開会時刻：午後1時30分〕	
大堀課長補佐	<p>予定された時刻となりました。ただいまから第2回総合教育会議を始めたいと思います。会議の司会を務めさせていただきます総務課の大堀です。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、はじめにお願いを申し上げます。</p> <p>本日は、議事録作成の関係上、ご発言の際には御氏名を告げていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の総合教育会議の進行について申し上げます。別添次第をご覧ください。そこに記載しておきましたが、本日の会議を4つのPARTによって進めたいと考えます。</p> <p>御協力をよろしくお願いいたします。それではPART1です。</p> <p>目黒総務課長よろしくお願いいたします。</p>
目黒総務課長	<p>総務課長の目黒です。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の会議の説明を行います。</p> <p>教育委員会制度が変わり、本年度より首長が教育委員会を招集して行う「総合教育会議」の第2回会議を行います。</p> <p>PART2では「町長が今年度の町行政と教育を語る。」。</p> <p>PART3では、各教育委員の皆様から意見聴取させていただきます。</p> <p>その際、今年度を振り返りながら教育委員として、お気づきの点や御意見などをいただきたいと考えております。</p>

大堀課長補佐	<p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>最後のPART 4では締めくくりとして、町長からのまとめの言葉をお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速会議に入らせていただきます。</p>
加藤町長	<p>「総合教育会議」、本年度2回目の開催ですが、今年度は最終の会議となりますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>震災から5年が経過し、町の復旧・復興も目に見えて進んでおります。国は平成28年度から5カ年を、自立を目指す「復興・創生期間」に位置づけ、新たな復興段階への移行を目指しております。</p> <p>新地町では近い将来のまちづくり設計を明確にしながら、直面する課題と対峙しながら意欲的に取り組んでおります。</p> <p>具体的には、将来の展望と方向性を示す「新地町第5次総合計画後期基本計画」や「新地町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して新たなスタートを切ろうとしています。常磐自動車道も全線開通し、JR常磐線も今年の12月末までの開通に向け急ピッチで工事が進められており、再開後には、通勤・通学の利便性の向上、交流人口の増加を期待しております。JR新地駅を中心とした「新地駅周辺市街地復興整備事業」を進め、魅力あるまちづくりを目指しております。</p> <p>教育についてですが、第1回目の会議でも申し述べたとおり、学校教育は勿論、社会教育や文化・スポーツ面、あるいは公民館教室、サークルでの生涯学習に関しましては、現在も積極的に行われていると感じております。これらの活動をより高め、復興推進と同様に「チームしんち」として、町行政と教育委員会が一丸となり笑顔あふれる町づくりを進めることが大切であると考えております。</p> <p>さて、第1回会議では教育委員の皆様方から貴重な御意見を頂戴いたしました。加藤委員長や高崎委員さんからは、歴史文化についての整備のお話を伺っておりました。積年の課題であります三貫地貝塚につきましては、農林水産課と共同で地権者説明会を実施し、生い茂っている桑の木の抜根作業、それに伴う遺跡調査へ向けての話しをしております。早急にとはまいりませんが、腰を上げてスタートしたことは報告いたしておきます。また、観海堂の将来の在り方や既に発掘してある縄文土器や文化財の保存や史跡を紹介する場づくりなどについても鋭意検討を加えているところです。</p> <p>森委員さんからは教育環境を整えることが大切であり、そのことが新地町に人を留めておけることにもつながるとの言葉をいただきました。私としましては、マスコミでも話題として取り上げられております教育委員会でも力を入れている「ICT教育」や「食育」事業は未来を担う子どもたちにとっても大切な事業であると認識しております。</p> <p>また、大須賀委員さんはPTAの立場として子どもの安心安全を述べられましたが、このことも昨年「新地町通学路安全推進会議」を立ち上げて建設課、町民課、警察署、建設事務所、磐城国道事務所などと通学路の危険箇所の現場点検を行い安全確保に尽力しているとの報告を受けております。</p> <p>震災後の危機的な状況により、教育面の課題も山積する中で、町長とし</p>

て教育予算の編成、執行に当たっては教育委員会とは密なる連携を図りながら、十分な配慮をいたしております。今後も、継続していきたいと思っております。

先日、3月の議会も終了して28年度予算が承認されました。

一般会計、当初予算では161億円、平常時ですと新地町はだいたい40～45億円が一般会計の当初予算ですが、今、震災復興の事業を抱えて、大変大きな100億円を超す復興事業等も行っておりますし、これらも今いる職員たちの献身的な働きをしてもらっていますし、また、全国から多くの支援もいただきながら復興を進めているという状況であります。

新しいまちづくり、そして人づくりに「チームしんち」を合言葉にして町行政を推進しております。特に教育行政では、次の三点を申しあげておきたいと思えます。

第1点目は、

- (1) 平成28年度の、学校教育関係です。小学校の1年生から3年生まで、国語・算数・理科・書写についてのデジタル教科書を導入いたします。全学年分に導入されることとなります。国は4年後から全国にデジタル教科書活用を推進していく方針があるようですので、新地町は正に先導的役割を果たしているわけです。

懸案事項として駒ヶ嶺小学校の雨漏りについては、前回に調査することを申し上げました。今年度調査を実施しましたが、原因究明までは至っておりません。しかし、安全安心を第一として、調査で判明しております屋根防水工事につきましては来年度4300万円の予算措置を行っております。

第2点目ですが、

- (2) 平成27年度には、円滑な教育活動を維持し発展させるための方策として、人的整備を心掛けました。

一つは指導主事2名配置、二つ目は文化財主事の登用を図りました。この3名の教育行政での顕著な活躍をお聞きしております。

ICT活用事業では、来年度もICT支援員を各学校に配置する予定です。学力向上と情報教育のスムーズな展開ができることと期待しております。

スーパー食育事業では、地場産のコメや野菜を使用した給食に力を入れていることが、ICT教育と同様にテレビや新聞で大きく報道されておりました。広報活動は大変に重要なことだと考えております。食育では課題の解消と地産地消の推進に大いに期待しているところです。

最後の3点目ですが、

- (3) 生涯学習、社会体育、社会教育面では、復興が目に見えて進んでいる中で、新地町の皆さんが元気になり、スポーツ活動や生涯学習活動に意欲が見られます。大変喜ばしいことです。スポーツ面では施設設備の改修を計画しております。今年度は総合体育館のLED照明化や野球場本部席雨漏り修繕を行いました。来年度は野球場に力を入れ、スコアボードの改修と芝を含めたグラウンド整備を計画しております。

社会教育面の公民館活動にも新たなメニューが加わると聞いてお

	<p>りますので活性化に期待しているところです。</p> <p>それから小川の仮設住宅について、これまで子どもたちの相馬新地地区小学校体育大会で使われるグラウンドが震災以降仮設住宅として使用されていましたが、今、町内8カ所の仮設住宅を2カ所に集約しております。小川の仮設住宅も解体ということもあり、土が盛られましたが、町としては私は県の方に対して元の4種公認の陸上競技場に戻してほしいという要請をしております。県からも町の意向に沿うよう整備をし、町にお返しします、というような返事をいただきました。委員の皆様方にも報告しておきたいと思えます。ただ、今年は相馬地方のポンプ操法大会について新地が会場になっておりますので、グラウンドあるいは駐車場のことを考えるとそこしかないということで、夏頃には整備した上でポンプ操法大会が終わった後、グラウンドの整備に入っていきたいと考えておりますのでご報告させていただきます。</p> <p>以上になりますが、町長として教育委員会とともに、子どもたちは勿論、町民全体に元気と笑顔があふれる町づくり・人づくりを推進してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、PART3に移ります。教育委員の皆さまから御意見をいただきます。時間の都合上、簡潔にお願いできればと思えます。よろしくお願いたします。</p> <p>まずは加藤委員長様、よろしくお願いたします。</p>
加藤委員長	<p>まずはひとつ御礼を申し上げます。何年か前から要望していた図書館の支援員が配置されました。これにより読書活動が充実しているようで、子どもたちの読む力、人の話を聞く力や自分の気持ちを言葉にする力が読書感想画コンクールでよく目にすることができますので御礼を申し上げます。</p> <p>それから要望として前々から2つほど考えていることがございます。</p> <p>かつて女性は経済的な自立が難しいために離婚ができませんでした。このことを考えると最近では社会進出、女性の人権が確立され離婚できるようになりまして、大変良いことだと思いますが、労働者派遣法などによって経済格差が女性の方々にもしわ寄せが来ていまして、将来の可能性を豊かに秘めている子どもたちがこの経済格差によって進学ができない状態で、本来は大学あたりまで望むものは公平に学習の機会が保証されるべきだと思いますが、それがかなわない状態で、2月の教育委員会の時も奨学金返済率が100%で携わる方々の、できれば母子家庭枠というようなハンデを持つ親子のお子さんの進学のための公的扶助という特別枠を設けていただければと考えております。</p> <p>生涯学習領域 教室や講座ですが 立派な人間を作るためには賢い女性を育てなければならないということがあります。私は尊敬している人物に菅野八重子先生と小野トメヨ先生がいらっしゃいます。90歳になっても社会的活動を始め、いろいろな活動を通し常に自らを成長させる活動をしております。サードキャリアによる方々の知的推進活動、ただ楽しむだけではなく、学習活動や奉仕的な活動をしたりして、公民館活動あるいは</p>

大堀課長補佐	<p>生涯学習活動領域で特に80歳以降の、できれば障害なく日常生活が送れるだけじゃなくて知的精神活動、文化的活動、社会的活動を行っていく、そして小学生低学年の学習支援を時々行えるような、80以上のサードキャリアの方々の生涯学習領域の知的、精神活動などの講座を設けていただければいいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございました。 続きまして、森委員様、よろしく願いいたします。</p>
森委員	<p>今委員長さんがおっしゃったように図書支援員の関係でいいことがありました。学校に行く機会が毎日ありますので、支援員さんが来ている日の子どもたちはとても和やかとか楽しそうにしている姿を見ると、今は週に1回だけですが、もう少しいらっしゃったらいいのではないかと、できれば毎日いらっしゃればいいのではないかと思います。その辺を充実させていただければいいのかなと思いました。</p> <p>それから私は仕事上で児童クラブにいますが、どうして児童クラブにいる子が増えてくるのだろうかと思っております。やはり安全面を保護者の方は1番に考えて児童クラブに預けられるのだと思うのですが、4、5年生になってあの中に入れられているのはどうなのかと思うことも多々あります。それでやはり子どもが外で自由に遊べる環境といいますか、通学の安全、生活の安全があれば親御さんも学校が終わったらすぐ家に返すことができるのかなとこの頃思います。そのためには、防犯カメラであったり、地域の人による見守りやパトロールがよりこまめに活動されればもう少し子どもたちが自由になれるのかなと考えることがありますので、その辺を考えた町になればということで希望したいと思います。そのためにも教育総務課とか町民課などの子どもに関する課や、高齢者に関する課を縦社会ではなく、横のつながりがあるとうまくいくのではないかと日々考えております。</p> <p>それから子どもを増やすと言うことで 広畑にアパートができることになったのですが、やはり計画としてそういうこともこれから考えていき、現在新地町が変わっていきこうとしている場面に参加してくれる人をたくさん作ってほしいと思います。</p>
大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。 続きまして高崎委員様、よろしく願いいたします。</p>
高崎委員	<p>文化財関係の方では三貫地貝塚の方も少し整備が進むということもありますし、「建学の精神」をどのような形で守っていくかということが今後は問われると思います。委員から話がありましたように、今、各地で作業員の方々がいろいろな工事関係で新地町にやってくるわけではございますが、復興や除染作業で知らない人が絶えず周りにいるということで、ちょっと住民の方々が不安に思う部分があると思います。それで敏感になっていろんな噂が飛び交い、それがあたかも真実であったように人から人へ伝わっていく状況がありますから、正しいことを知り、情報をきちんと伝えるということが大切ではないかと考えております。防犯カメラ等も抑止力になりますし、やはり地域の目というのが大切であり、地域の人々が児童生徒を守るという意識付けも必要ではないかと考えております。</p>

大堀課長補佐	<p>そのような状況を思いやると一番は安心安全ということで、これからの施策を構築していただきたいと思います。</p> <p>あとは地域によって児童生徒が少ないというところが出てきている状況ですので、児童生徒がいる家庭を優遇して住宅に住まわせたり、多くの方々を呼んでこられるような施策を実践し、学校の子どもたちの減少にならないようにしていただければと要望いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、大須賀委員様、よろしくお願いいたします。</p>
大須賀委員	<p>第1回の総合教育会議では子どもたちの安全安心のために通学路の整備とすることで、各機関との連携のご配慮をいただきありがとうございました。私からの要望は、森委員、高崎委員と一緒にしていますが、福島第一原発事故に伴う復興の事業で、やはり県外からの住み込みによる除染作業員数が3ケタ代に上がるというような話がありまして、いろんな噂が立っていて、それによりどこまでが噂なのかわかりませんが、噂が多く立つと言うことは人々がそれだけ不安に思っているということでもあると思います。また、2020年のオリンピックに向けて、身元が分かる人はみんなそちらの方に行ってしまったらどうか、外国の方が入ってくるのではないかと、そういった嘘なのか本当なのかわからないような話も聞こえてきます。</p> <p>元々新地町は学校の送迎で親が車を出すということが多かったのですが、それに加えてこの状況で、なおさら晴れていても風が吹いていなくても至近距離でも親が送り迎えをするという状態がさらに増えているような気がします。そこで保護者が注意するのはもちろんのことですが、地域の人々の目、そしてやはり町でも防犯カメラ等を取り付けるなど、笑顔があふれる町づくりのためになにか対策を講じていただければと思うのが一点目です。</p> <p>私は保護者の立場として教育委員会にありますが、子どもたちの様子を見て変わってきたなと思うことがあります。それは、ICTを入れて大分経つのですが、最近ではタブレット等のICT教育環境に慣れてきたなと思うことがあります。例えば子どもたちが自分で資料を作成したりするのですが、それが電子黒板に表示されて、他の児童も自分が作った資料を目にすることができます。そういうことで、手元のタブレットでいろんな人と共有できるようになり、一人一人が一個一個を熱心に作成する等のプレゼン能力が向上したと目に見えて感じております。駒ヶ嶺小学校ですと、自転車旅人の西川さんとのスカイプを使った長く続いている異文化交流事業があります。交流できるのは主に高学年で、西川さんが海外の様々な地域を縦断横断するためには、どのルートが安全でどこで食べ物を調達できるかといったところまで子どもたちに任せてくれるので、子どもたちもどうしたら西川さんが安全で安心なルートを通って行けるか、そういったことに対して責任を持つことができる体験をすることができます。こういう体験もICTがなかったらできなかつたと思っているところです。ICT教育が入ることによっての課題もあり、多くの支援が必要となってくると思いますが、ICT教育はぜひ、これからも継続していただきたいなと思う事業です。</p>

大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。 それでは、最後に佐々木教育長、よろしく申し上げます。</p>
佐々木教育長	<p>やはり教育の要は「教師力」だと思います。その教師を育てるのが管理職と指導主事であり、その方たちの資質と力量が非常に問われます。幸い管理職も指導主事もまとまりが良く、一生懸命やっただけていますので、保護者の皆さんと同じように子どもたちを育てる喜びを実感しています。今まであった苦情は小さいものを含めると1年で何十件ときていたのですが、今年になってから殆どないという状態でございます。学校教育の端々においては何かしら異がある方もいらっしゃると思いますけども、教員は総じてそれを乗り越えるくらい一生懸命に教育活動に取り組んでいると承知しておりますので、これからも続けていきたいと思っております。</p> <p>教育の活性化には、町行政からの理解の下で温かなサポートをいただいているということが、その基盤にあることは確かなことです。これがなければおそらく大須賀委員がおっしゃったようにICT事業もできません。学校教育では「教師力が大切」という一つの根幹を教職員間で共通理解を図っている点と教育へのサポートが大事だなどと思う町行政全体の姿勢のおかげで優秀な生徒、心豊かで元気な子どもたちが出てきている現実を直視し、教育サポート体制に素直に感謝して頑張らなければならないということ、教育委員共々、子どもたちは勿論のこと先生方や町の方々にも伝えていくのが教育委員会の大切な責務であり、町全体で町長さんのスローガンである「チームしんち」を作っていくということが町の強さになっていくのではないかと思います。</p> <p>先頃は天栄村の教育関係者の方々が来町して、タブレット等のICT教育環境づくりで新地町と同じことをしたいということで伊藤指導主事と相談し学校視察を行い、アドバイスを受けておりました。同じことを来年度やろうとしていることを聞いて、非常に嬉しく思っております。視察は駒ヶ嶺小学校に行っていただきました。お帰りになるときは、電子黒板などを同じくそろえたいと言っておりました。これが広がっていけばよろしいと感じました。相馬市や大玉村さんでも動きがでてきているようです。</p>
大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。 それでは、PART3を終了させていただきます。</p>
大堀課長補佐 加藤町長	<p>それでは、PART4に移りたいと思っております。 本日の会議の締めくくりといたしまして、町長に感想を交えながら、まとめの言葉をいただきます。</p> <p>委員の皆さんから貴重なご意見をいただきありがとうございます。 図書館の充実というのはうれしいと思っておりますし、町内でももっと多くの人たちに利用していただきたいと思っております。新地町は町外からも結構利用者が多く訪れております。今、新地町図書館は蔵書が8万冊以上になりました。支援員の方たちが読み聞かせ、図書整理、ピックアップして子どもたちにどういう図書を読ませたらいいのかアドバイスをいただきながら、支えていただいております。私も町外の方から新地町の図書館は明るく利用しやすく良いと言っていたいただいており、より一層充実していければと思っております。</p>

今、司書1名、臨時の方が4名いまして、スタッフ的には恵まれていません。皆さんからいただいた意見をそれぞれの部署で協議をしながら次の機会にお話ししたいと思います。

委員長から女性の社会進出というお話をいただきました。町は基本的には奨学金申請をお申し込みいただいた方にだめですとしたケースはないと思います。ただ、委員長のおっしゃるのは母子家庭の方で、経済的に困窮している方の免除等を考えてほしいということだと思えます。いろいろな方法があると思いますが、あるいは奨学金を受けていて、新地町をよりよくするために役場職員になった、そういう人たちを免除したりなどのいろいろな方法があると思いますが、少なくとも希望を持って、目標に向かって進んでいく子どもたちに対してはしっかりとした応援はしていきたいと思っています。

八重子先生やトメヨ先生のお話もありましたが、現役で第一線で活躍している姿というのが本当にすごいと思います。生涯学習だけではなく子どもたちに対してもお話する時間があればいいですね。

子どもたちの安全安心について、防犯カメラの設置が必要ということで考えていかなければならないと思っています。街角などのポイントには配置しているつもりです。今、女性に限らず防犯には不安はあります。町外から多くの作業員の方が来ています。以前に警察署長とお話をしましたが、去年一昨年よりも減っていますし、平常時の時の方が世間を騒がせるような事件は多かったようです。ただ、この間のように南相馬市とか相馬市で作業員による事件等があると、やはり地域住人の人たちが動揺しますし、町で子供を持つ親にしてみれば心配だろうと思います。関係機関と情報交換しあいながら安全安心に対する取り組みをやっていかなければならないと考えています。今でも福田地域において、子どもたちの下校時間に地域の人たちで見守りをやっています。PTAだけに限らず防犯協会あるいは防犯指導会そういった人たちが、ローテーションを組みながらボランティア活動をやっていただいています。福田ならではと思います。

福田における少子化について、今年の小学校入学生は8名で、一気に一桁になってしまい、それが続くならば考えていかなければなりません。簡単に来年から統合するということではなく、他の事例を見て、何年間か意見交換をし、何年間かのデータを見ながら検証して町としての計画を立てていかなければならないと思っています。

ここ2, 3年町内にアパートが建ちましたが、どうも完成前から満杯になったようです。ところが、新地や駒ヶ嶺にはいっぱい建ちますが、福田地区には1件も建っていません。この辺がなかなか難しいと思います。地域がバランスよく発展してほしいというのは行政側の思いもありますし、議会等とも相談しながらなんとか子どもたちの数をもっと増やしたいということで考えています。基本は町外からの方の受け入れです。そして福田保育所、福田小学校に入ってもらえればという思いで、今回福田小学校の後ろ側に12戸を建築しています。この間の議会の中で福田に若い人たちの入居はあるかという質問がありました。それは町全体で取り組んでいく事業でもありますし、行政だけでなく議員の皆さんも情報発信をしながら協力してくださいとお願いいたしました。

この間鶴瓶の家族に乾杯で震災復興のちょうどいいタイミングで新地町を取り上げていただきました。アポなしの、ああいって突然の出会いだったのですが、浜のお母さんたちは相変わらず元気で町外からもいろいろな反

響がありました。新地の復興が結構進んでいるようでよかったというメッセージもいただきました。うれしいことには震災後新地の仮設に入っていて新地は住みやすい、教育環境もいい、仙台とも近い。そういったことで交通の利便性や子どもの教育の関係など新地町に住みたいという人たちがとても増えています。

震災後の5年間で町外から新地町に来て家を建てている人たちは150件以上あります。以前からもそうですが新地町の人口は自然減で50～60人ずつで、生まれてくる赤ちゃんが絶対的に少なく50～60人で、亡くなる方が110から120名で、ずっと人口が減ってきていますし、7700～7800人ほどでした。昨年10月の国勢調査で8220人を超えました。これからもっと新地町の人口は増えていきます。それは希望的観測ではなく、現実に立ってきていますし、LNG基地の建設も今進められています。そのエネルギー関連の企業も進出してきます。そういった中で私が心配しているのが、新地、相馬地方あるいは仙南エリア 企業の立地がどんどん進む中でこの地元のエリアから企業が求める人材を供給できるだろうかという問題です。新地町は好きだけど、働く場所がなかなか無く、関東などへ行ってしまう若い人たちへ、町で情報発信をし、IターンUターンを勧めております。昨年からはじめ、何人か戻ってきています。奥さんや子どもを連れて戻ってきた方もいますし、少しずつ効果は現れていると思っております。

そして、先ほど委員長からありました奨学金について、貸し出している、あるいは返済中の人たちに対し、毎月町の広報誌を送付して、新地町の今の状況を伝えていく必要がありますので、企画振興課に話し、情報発信をしております。さらに4月から町のホームページが一新されます。少しでも町の情報発信をしていきたいと思っております。

1～3月まで、町内29カ所の各地区の総会に顔を出しまして、今の震災復興の状況と、人口が増えつつあるということをお話ししてきました。昔は一家に8人10人は当たり前、3世代4世代と一緒に住んで、兄弟、親子喧嘩をして騒がしく生活していました。今は人口が毎年減ってきていますが、世帯数は少しずつ増えてきています。いかに核家族化が進んでいるか、これが一番の原因だと思います。

私は、賑やかに家族同士で泣いたり笑ったり、それでいいと思っております。3世代4世代と一緒に生活できる、そういう環境づくりができれば、おじいちゃんおばあちゃんが孫の送り迎えをして若い人たちが働いていける、そんな風につながっていけば、小さい孫たちもおじいちゃんおばあちゃんからいろいろないいこと悪いことを学ぶこともできると思っておりますし、少しずつ理想の町づくりを発信していきたいと思っております。

委員の皆様からいただきました意見につきましては、十分に課の方で話し合いながら考えてまいります。

大堀課長補佐

ありがとうございました。

皆さまからご質疑などがなければ、最後に総務課長より事務連絡を申しあげまして「総合教育会議」を閉じさせていただきます。総務課長よろしく申し上げます。

目黒総務課長

事務連絡を申し上げます。今年度の「総合教育会議」についてですが、定例会としては昨年度同様に年に二回と考えておりますが、今後、担当間

で協議して調整してまいります。
次回日程につきましては、後日お知らせいたします。
本日はありがとうございました。

(14時10分会議終了)